



ひろ た ひで き
広 田 秀 樹

職 名 教授
担当科目 国際経済学、世界経済論、
キャリア開発Ⅱ-1、
大学を飛び出して地域を知ろう、
英語Ⅰ・Ⅲ、ゼミナールⅡ前後・Ⅲ・Ⅳ
研 究 室 ダイヤルイン 0258(39)1910
内線 411
E-mail hirota@nagaokauniv.ac.jp

研究テーマ (1)世界経済の長期的包括的分析
(2)新潟県における商工会と地域発展の研究
(3)アメリカの国際政治戦略の研究

研究業績

- 著 書 平成10年9月 JAPANOLOGY CLASS - The Dynamic Transference of Japan - related Knowledge to The Entire World for The Creation of Splendid Global Society(Single Work)(多賀出版)
- 論 文 平成8年10月 『テイクオフの経済政策－産業国家離陸の経済政策～MITIの戦略産業育成政策』(単著)(多賀出版)
- 令和7年1月 Super Powers and Strategic Offensive Arms Control Negotiations－Overview of SOA Control Talks, from SALT 1 by Nixon and Brezhnev to New START by Obama and Medvedev－『研究論叢』第23号
- 令和6年1月 フォード政権期の米ソ戦略関係と国際安全保障政策－「デタント」と「対ソ強硬」の併存期における米国の戦略模索、1974-1977－『研究論叢』第22号
- 令和4年3月 「レーガン政権期の対ソ核軍縮交渉における争点とリアリズム－NSDD256・NSDD271を中心として－」『研究論叢』第20号
- 令和3年4月 「米国ハードライナーの大局的戦略形成要因としてのロングターム・スーパーパワー・リレーションに関する考察－超大国覇権・世界戦略遂行の「究極の力の後ろ盾」としてのストラテジック・オフense・アームスの長期的状況変化を中心に－」『研究論叢』第19号
- 学会報告 平成20年10月 「日本の競争的研究資金制度の課題」研究・技術計画学会 第23回年次学術大会
- 平成11年5月 「経済政策の日米比較－独創的産業技術創造への政策対応」日本経済政策学会第56回大会
- 平成8年5月 “The Theory of Industrial Policy” 日本経済政策学会第53回大会
- 平成4年11月 「発展途上諸国の開発戦略としての産業政策」国際開発学会第3回全国大会

略 歴 令和5年9月 新潟大学大学院現代社会文化研究科博士後期課程共生社会研究専攻修了 博士(法学)

平成19年4月 長岡大学経済経営学部教授(現在に至る)

平成17年4月 長岡大学産業経営学部教授

平成14年4月 長岡大学産業経営学部助教授

平成11年4月 長岡短期大学経済学科助教授

平成6年4月 長岡短期大学経済学科専任講師

平成6年3月 法政大学大学院社会科学部研究科経済学専攻博士課程単位取得満了

昭和63年3月 法政大学大学院社会科学部研究科経済学専攻修士課程修了(経済学修士)

昭和61年3月 法政大学経済学部経済学科卒業

社会的活動 令和6年12月 第60回長岡社会保険委員大会において講演

令和5年1月 小国町商工会新春講演会において講演

令和2年8月 新潟県商工会連合会・商工会運営研究会委員(令和3年3月まで)

平成25年4月 南魚沼市産業振興ビジョン策定委員会委員(平成26年3月まで)

平成21年12月 南魚沼市でのパネルディスカッション(「コンテンツ産業と連携したまちづくり」にてコーディネーター

平成21年3月 科学技術振興機構において講演

所属学会 研究・イノベーション学会、日本経済政策学会、国際開発学会、国際公共経済学会、日本国際政治学会、政治経済史学会、軍事史学会

テーマNo.1	なぜ、若者は大学に行くべきか
内 容	世界の若者で、大学へ行ける人は、1%にも満たない。 日本の若者は恵まれている。日本には大学がたくさんある。奨学金制度も充実している。 意志さえあれば誰もが、大学で勉強することができる。 実は、大学ほど若者の力を伸ばせる場はない。 講座では、以下の点から、大学での若者のパワーアップを解説します。 ①本格的な知力としての「教養・専門知識」 ②多様な人間関係の中でつける「強い人間力」 ③自由な環境だからこそつくれる「最高の思い出」

テーマNo.2	なぜ、若者は働くべきか
内 容	現在日本には、学校も行かない、仕事もしない、仕事をするための訓練も受けようとしない、ニートと呼ばれる若者がたくさんいる。 豊かな社会になったためか、守られすぎているためか、働くという価値がどんなに貴重なことかが、分からなくなっているようだ。 講座では、若者にとって働くことの価値を、以下の点から解説します。 ①働くことによって身につける「さまざまな人間への対応力」 ②働くことによって得られる「生きるために役立つ能力」 ③働くことによって知る「社会の本当の姿」

テーマNo.3	なぜ、若者は世界を知るべきか
内 容	超高齢化、財政赤字、経済成長の鈍化、格差、社会不安など、今日本は大きな危機に直面している。しかし、広く世界を見れば、日本が生き残るヒントがたくさんみつかる。 講座では、以下のような世界各国の独創的な社会制度について解説します。 ①大胆な政策転換を可能にするアメリカの大統領制 ②少ない労働時間でゆったり暮らせるオランダのワークシェアリング ③医療・年金・生活などで不安がない北欧の福祉社会